

井上ひさし著 4千万歩の男 伊能忠敬

八柳 修之



伊能忠敬は下総佐原村の婿養子先、伊能家の財をふやし 50 歳で隠居。隠居と同時に本格的に星学、暦学の勉強をはじめ、1800 年 56 歳から 72 歳までの 16 年、二歩で一間の歩みで 17 年間で三万五千キロ、約四千万歩を歩き尽くして日本地図を完成させた。愚直にも思えるその精神が支えた。第二の人生を全うする平凡な覚悟は我々の生き方に大きな示唆を与える。全五巻。講談社文庫(表紙帯より)

この本は「週刊現代」に 1976 年 1 月 1 日号から 1983 年 8 月 20 日号まで連載されたもの。1986 年に「蝦夷編(上下)」が講談社から刊行され、1989 年に「伊豆編」が刊行された後、1990 年に同社の単行本で全 5 巻に再編された。

地球一周をめざすイヤーランド・ウォーカーのみならず、平均寿命が長くなった現在、第二の人生をいかに過ごすか、示唆を与えてくれる書である。



伊能忠敬の略歴：延享 25 年(1745)上総国山辺郡小関村に生まれる。幼名は三治郎。18 歳の時、下総佐原村の名門伊能家に入り、通称を三郎右衛門と改める。伊能家は佐原で一、二を争う大きな造り酒屋で、また米屋でもあった。ほかに田畑も沢山所有し、毎年、600 石(1500 俵)もの小作米が入って来ていた。利根川の洪水、天明の飢饉などに際して私費を投じて村政に力を尽くし、地頭の旗本津田日向守(6,000 石)から名字帯刀を許された。寛政 6 年(1794)、49 才のとき長男景敬に家を譲って隠居し、勘解由(かげゆ)と名乗る。翌年、江戸に出て深川黒江町に居を定め、幕府の改暦事業のため江戸へ来ていた暦学家の高橋至時(よしとき)に入門して西洋天文学を学び、また自ら天文観測を行った。やがて地図製作を志し、師の高橋至時の推薦によって寛正 12 年

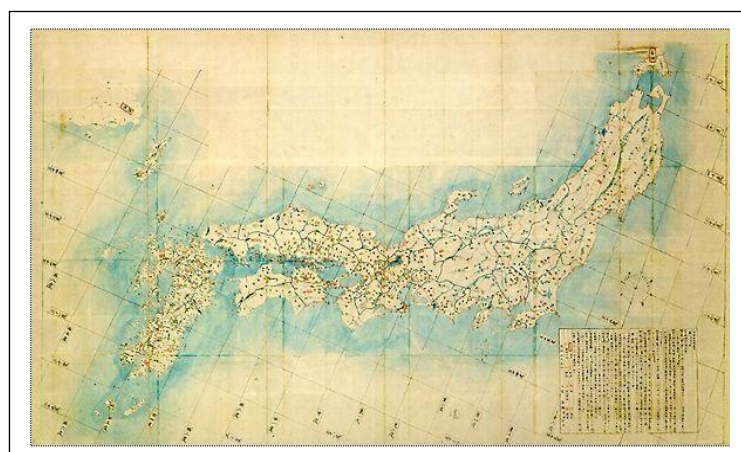
(1800)、幕府の命を受けて蝦夷東部と南部を測量、以後 17 年間、測量に従事し、文化 13 年(1816)に全国の測量を終えた。地図の編纂は忠敬の死後 3 年目の文政 4 年(1821)に高橋至時の子、高橋影保(景康)の手によって完成され、幕府に上程された。その後、影保はシーボルトに「大日本沿海実測全図」を渡し(シーボルト事件)、逮捕され文政 12 年(1829)獄死した。

17 年間の測量旅行で忠敬が歩いた距離は 34,913km。約 35,000km、4000 万歩歩いたと井上は述べている。

以下、伊能忠敬が、寛政 12 年(1800) 55 歳で測量を開始してから、文政元年(1818) 73 歳で亡くなるまでの 18 年間、蝦夷測量中、樺太探検中の間宮林蔵に会った興味ある話もあるが、忠敬の測量旅行の足跡を第 5 巻末尾の伊能忠敬年譜から恣意的に主なる事項、どこを歩いたのかピックアップしてみた。

第 1 回	寛政 12 年	1800	55 歳	蝦夷地東・南部を測量して実測図をつくる。間宮林蔵と会う。
第 2 回	享和元年	1801	56 歳	伊豆から陸奥までの本州東海岸と奥州街道を測量

第3回	享和2年	1802	57歳	出羽街道、陸奥から越後までの海岸、越後街道を測量。子午線一度の長さを28.2里(110.75km)と算出した。
第4回	享和3年	1803	58歳	駿河から尾張まで、また、越前から越後までの海岸と、その地方の主な街道、佐渡島などを測量
	文化元年	1804	59歳	日本東半部沿岸実測図を作成して幕府に差し出す。師の高橋至時死去(40歳)、幕吏に登用され西日本の測量を命ぜられる。
第5回	文化2年	1805	60歳	東海道筋、伊勢から紀伊半島、それより備前岡山までの海岸、淀川筋、琵琶湖周辺などを測量、岡山で越年
	文化3年	1806	61歳	山陽の海岸と島々、山陰と若狭の海岸、隠岐島等を測量し江戸に帰る。
	文化4年	1807	62歳	第5回測量地域の地図をつくる。
	文化5年	1808	63歳	四国と淡路の海岸の海岸、大和及び伊勢街道を測量
第6回	文化6年	1809	64歳	前年測量地域の地図をつくる。中山道と山陽道の街路筋を測量、伊勢の山田で越年。 間宮林蔵と松田伝十郎、樺太探検へ
	文化7年	1810	65歳	九州の豊前、豊後、日向、大隅、薩摩、肥後の海岸、熊本から大分までの街道を測量、大分で越年
第7回	文化8年	1811	66歳	中国地方のおもな街道、美濃三河から信濃の街道、甲州街道など測量し江戸へ帰る。再び九州を目指して出発し摂津郡山で越年
第8回	文化9年	1812	67歳	九州へ渡り、筑前、筑後と肥前の一部の海岸、種子島、屋久島、その他九州の諸街道など測量して、肥前、賤津浦で越年
	文化10年	1813	68歳	九州の残りの海岸と街道、壹岐、対馬、五島、中国地方の残りの諸街道などを測量して、姫路で越年。長男景敬死去(47歳)
	文化11年	1814	69歳	近畿、中部地方の残りの街道など測量して江戸にもどる。江戸の屋敷を八丁堀亀島町に移す
	文化12年	1815	70歳	江戸府内の予備測量を行なう。部下たちに伊豆七島などを測量させる。(忠敬は老年のため不参加)
第9回	文化13年	1816	71歳	江戸府内を細測、「大日本沿岸実測全図」の作成にとりかかる。「仏国曆象編斥妾」をあらわす。
	文化14年	1817	72歳	「大日本沿岸実測全図」の作成を続けていたが、健康とみにおとろえる。
	文政元年	1818	73歳	4月13日、江戸八丁堀亀島町の屋敷で死去、浅草源空寺の高橋至時の墓側に葬られる。景敬の妻りて死去、孫鉄之助死去
	文政4年	1821		「大日本沿岸実測全図」(数)完成、幕府に提出

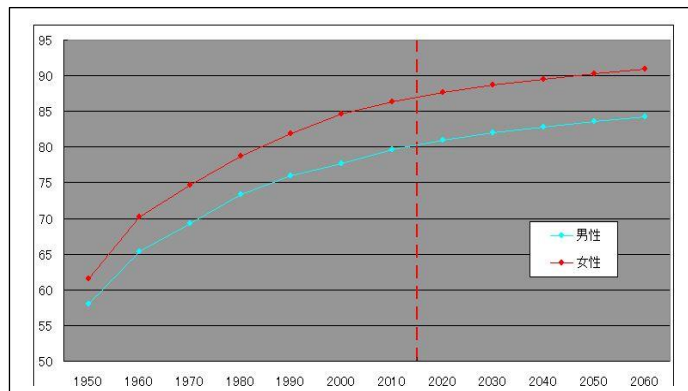


4月19日は「地図の日」

1800年（寛正12）4月19日、伊能忠敬が蝦夷地の測量の旅に出発した日に由来している。

素晴らしいかな 伊能忠敬セカンドライフのスタートの日、時に忠敬 55 才であった。忠敬は 10 次にわたる全国測量を測終え、1818 年（文政元）74 歳で亡くなっているが、長男景敬はこれより先 1813 年に 47 才で亡くなっている。人生 50 年と言われていた時代、息子の死はごく普通、そう短命ではなかった。

私の祖母は戦後 62 才で当時としてはごく普通、長生きした方であった。当時は 70 まで生きれば大往生と言われていた。



日本人の平均寿命推移と 2020 年以降の推定値 厚労省・内閣府

厚労省発表の「日本人の平均寿命の推移と 2020 年以降の推定値」によると、昭和 22 年（1947）男性：50.06 才、女性：53.96 才であったが、昭和 25～27 年（1950～1952）、男性 59.57 才、女性 62.97 才へと急速に伸び、もはや戦後ではないと言われた昭和 30 年（1955）には男性 63.60 才、女性 67.75 才と伸びた。

平均寿命が 80 才を超えたのは、女性は 1985 年（80.55 才）であるが、男性は遅れること 30 年、2015 年（80.75 才）であった。そして、令和元年（2019）男性は 81.41 才、女性 87.45 才となっている。他人の世話がなくてウォーキングが出来る健康寿命でみると、藤沢市の例では男性 80.69 才、女性 84.3 才となっている。

今後、平均寿命は延びて、2060 年には男性 84.19 才、女性は 90.43 才になるものと予測されている。

平均寿命の延伸は食糧・栄養、医薬・医療の発展と健康医療保険制度の充実があろう。私の子供の頃は、小児の死亡、結核、脳溢血、癌で亡くなる人が多かった。

寿命が延びるにしたがって、サラリーマンの定年制も延長されてきた。昭和初期にサラリーマン 55 才定年がスタートしたが、1980 年代になると 55 才から 60 才定年が企業の努力義務とされた。1900 年には定年後再雇用の義務化、1998 年には 60 才定年、2000 年 65 才まで雇用努力義務、2006 年、65 才まで雇用確保義務、そして 2025 年には 65 才定年制が始まろうとしており、また人生 100 才代も夢ではないとされている。



人生 100 年時代を迎えるなかで、定年、平均寿命と健康寿命の差を縮めるかが社会的課題であり、余生を如何に過ごすか。人生二毛作、忠敬さんの生き方が問われている。健康でいられる期間を伸ばすこと、人の手を借りずに「楽しんで歩くこと」は人生を豊にすることは確かであろう。みなさん、楽しんで歩いて下さい。（完）